

農業協定における市場アクセスグループ議長の記録

<原文>

RESTRICTED
MTN.GNG/MA/W/24
20 December 1993
Distribution Special
(UR-93-0250)
Original: English

Negotiating Group on Market Access

**MODALITIES FOR THE ESTABLISHMENT OF SPECIFIC BINDING
COMMITMENTS
UNDER THE REFORM PROGRAMME**

NOTE BY THE CHAIRMAN OF THE MARKET ACCESS GROUP

The present text of the Modalities for the Establishment of Specific Binding Commitments under the Reform Programme (originally issued as part of the Draft Final Act, MTN.TNC/W/FA of 20 December 1991, pages L.19 to L.34) reflects changes to these modalities resulting from the negotiating process. The text is being re-issued for the purpose of completing draft Schedules of concession and commitments in the Agricultural negotiations and for facilitating the verification process leading to the establishment of formal Schedules to be annexed to the Uruguay Round Protocol.

(中略)

11. Current access opportunities on terms at least equivalent to those existing shall be maintained as part of the tariffication process. Current access opportunities shall be no less than average annual import quantities for the years 1986 to 1988. Where these opportunities are expanded, the expansion shall be in line with the provisions of paragraph 6 of these Modalities. Any such expansion in access opportunities shall be provided on an m.f.n. basis.

<事務所訳>

部外秘
MTN.GNG/MA/W/24
1993年12月20日
特別配布
(UR-93-0250)
原文：英語

市場アクセス交渉グループ

改革プログラムのもとでの具体的な拘束力ある誓約を形成する手順（モダリティ）
市場アクセスグループ議長の記録

(略)

この文書は、農業交渉における譲許と誓約のスケジュール案を完成させ、ウルグアイ・ラウンド議定書に添付される正式なスケジュールの確立につながる検証過程を促進する目的で再発出されている。

(中略)

11 既存のものと少なくとも同等の条件での現行輸入機会は、関税化の過程の一部として維持されるものとする。現行輸入機会は、1986年から1988年までの平均年間輸入量以上でなければならない。これらの機会が拡大される場合、拡大はこれらの**手順（モダリティ）**の第6項（パラグラフ）の規定に沿ったものでなければならない。このようないかなる輸入機会の拡大も、最恵国基準で提供されるものとする。

コメのミニマム・アクセス機会の法的性格に関する政府統一見解

(1994年5月27日 衆議院予算委員会議事録より抜粋)

1. コメについて、ウルグアイ・ラウンド農業協定に基づきミニマム・アクセス機会を設定する場合、我が国が負う法的義務の内容は、コメの国内消費量の一定割合の数量について輸入機会を提供することである。
2. 但し、コメは国家貿易品目として国が輸入を行う立場にあることから、ミニマム・アクセス機会を設定すれば、通常の場合には、**当該数量の輸入を行うべきものと考えている。**
3. しかし、我が国が輸入しようとしても、輸出国が凶作で輸出余力が無い等客観的に輸入が困難な状況もありえないわけではなく、かかる例外的なケースにおいて、現実に輸入される数量がミニマム・アクセス機会として設定される数量に満たなかったとしても、法的義務違反が生ずるものではないと理解している。